第5回 公募

アートハウスおやべ 現代造形展

2025年
4月19日〔土〕—5月18日〔日〕
会　場 — アートハウスおやべ（小矢部市美術館）

ご　挨　拶



小矢部市長

桜井　森夫

「第5回公募アートハウスおやべ現代造形展」の開催に当たり、ご挨拶を申し上げます。

この公募展は、年齢・経歴・国籍を問わず、全国から広く作品を募集しており、今回は 41 都道府県より 346 点の応募がありました。このように、アートハウスおやべが文化・芸術、とりわけ現代の美の交流拠点としてふさわしい全国公募展を開催できますことは、誠に喜ばしく意義深いことです。

今回は入賞作品 38 点をアートハウスおやべの館内や野外のアートガーデンに展示しています。この機会に多くの方々に「アートの今」の姿を鑑賞していただければ幸いです。

今後も、本公募展を契機として様々な文化芸術の交流を繋ぐ取組を展開してまいりたいと考えています。何とぞ関係各位の一層のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。



北日本新聞社社長

蒲地　誠

身近で親しみやすい―。「アートハウスおやべ現代造形展」の印象です。現代アートはとかく「難解」と言われがちです。何が違うのでしょうか。受賞作を振り返れば、木漏れ日が作る景色を切り取ったり、衣装ケースを用いたりと、題材や素材が「普段着」の作品が多いからかもしれません。

一方で、作品と向き合ううちに深いテーマが浮かび上がることが多かったように思います。今回も審査員の方に聞けば「分断」や「地球温暖化」といった作家の問題意識が伝わる意欲作が幾つもあったといいます。作家 1 人 1 人が、思いを伝えようと懸命に「手で考え」続けたからでしょう。制作の過程に宿る思考や問いかけこそが、展示空間に奥行きや深みを与えているのかもしれません。

作品と対話し、感想や疑問を抱くことで完成するともいわれるのが現代アートです。この小矢部の地が、刺激的な対話を生み出す創造の場として成長していくことを願ってやみません。



第5回公募アートハウスおやべ
現代造形展実行委員長

野澤　敏夫

本企画展は、全国から作品を公募し、新鮮で多様な現代造形の姿を紹介すると共に、全国各地との新たな美の交流を生み出すことを目的として開催するもので、今回で 5 回目を迎えるに至りました。大賞・特別賞の作家には、翌年度、「アートの今」と題する展覧会において作品発表の場を提供し、その創作活動を支援します。意欲的で斬新な造形文化に光を当てることをめざすアートハウスおやべの中核的な事業の一つです。

今回も、平面・立体・インスタレーションの 3 部門に計 346 点の多くの作品を寄せていただきました。今回新しく設けた「優秀賞」の作品も含め、自由で開かれた展覧会にふさわしい個性豊かな作品がアートハウスの屋内外に並びました。作家の皆様、審査員の方々をはじめ、北日本新聞社、小矢部市企業協会並びにご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げる次第です。

今後も隔年での開催を予定していますので、引き続き皆様方の格段のご支援をよろしくお願い申し上げます。

審　査　員



国立国際美術館館長
1956年富山県生まれ。富山県立近代美術館、国立国際美術館、愛知県美術館、金沢21世紀美術館で勤務後、現職。現代美術を中心に、展覧会を企画すると同時に、近年はダンスや演劇などパフォーミングアーツの現場にもできるだけ足を運んでいる。

島　敦彦

「アートハウスおやべ現代造形展」は、地方都市では極めて珍しい現代美術の公募展で、全国各地から作品が集まる。寄せられた作品は、絵画や彫刻といった従来の分野のみならず、実験的なインスタレーションの出品も少なくない。今回はインスタレーションに魅力的な作品が多く、受賞作もそこに集中した。全体として特定の傾向があるわけではないが、終わりのない戦争や頻発する災害の時代を生きる私たちの今が、散見された。



富山県美術館 主幹・普及課長
学芸員
富山県出身
1992年から富山県の美術館の学芸員として、国内外の現代美術を中心とした展覧会、および教育普及活動の企画に携わる。

麻生　恵子

「アートハウスおやべ現代造形展」も第５回を迎え、2016年の初開催から９年となる。全国から広く作品を公募する本展は、年齢も経歴も国籍も問わず、分野も技術レベルもさまざまで、取り扱う領域も幅広く、自分の心には残ったが、残念ながら入選にならなかった作品もあった。大賞、特別賞、優秀賞は、時勢を映し出した批評性ある作品、ユニークで興味深い作品などで、審査員三者の評価が高く入賞となった。いずれも創作の喜びを確かに感じることができる作品で、この審査に立ち会えたことが嬉しく、本展の成功を心より祈願しています。



公益財団法人ポーラ美術館
主任学芸員
富山県黒部市出身
ポーラ美術館は印象派の絵画を中心に約１万点のコレクションを有する。近年は現代美術の収集、展示にも注力している。また、2017年からは若手芸術家の作品を紹介する個展形式の展覧会を開催している。

内呂　博之

今回の公募では、世界各地で発生している戦争や紛争の収束や、度重なる自然災害からの復興に想いを寄せた作品が比較的多く集まったように思いました。その中で大賞や特別賞には、生命の本質へのアプローチやアートというジャンルの超越など、新たな表現の可能性を感じさせる作品が選ばれたように思います。

入賞や入選を選ぶことは困難を極めましたが、豊かな感性に満ちたレベルの高い作品によって展覧会を開催できることは審査員として大変嬉しく思います。是非、アートハウスおやべにお運びください。

大　　賞　〔小矢部市長賞〕



川西　佑佳
かわにし　ゆうか

No.8「play with me」
（インスタレーション）

クラフトテープ、絵画、小物（既製品）

「遊戯」をテーマに制作されたインスタレーション作品で、会場にて即興で制作されている。遊戯的な要素を残しつつも、空間全体がまとまりすぎないように構成されているため動きがあり、風を感じる。もっと大きな空間にも拡張でき、空間に遊びをもたらしている。鳥や矢印のようにカットされた小さな段ボールが全体のリズムをもたらしており、斜めになったキャンバスにぶつかって発生した花火のようなイメージなど、遊び心溢れる演出も面白い。

また、限られた色数のテープによってバランスよく空間を構成しており、全体的にみるとしっかりとした絵画的な要素も作品から感じとることができた。

空間の上部に描かれた女の子の表情は鳥と戯れているようにも見え、アートでありながら誰もが入り込める作品で、従来のジャンルを超えた拡がりがあり、開かれた美術館を目指しているアートハウスおやべらしいユニークな作品だと感じた。

特　別　賞〔北日本新聞社賞〕



畑中　みずき
はたなか　みずき

open covering
（インスタレーション）
油彩、ライクラ生地

布に施した塗料が裏側に滲むさまを身体の内側と外側の世界になぞらえ、「穴」が外側と内側を繋ぐ「間」のような存在ととらえるという。生命が受胎してから成長していく過程を布の表裏に描くことで、皮膚や内臓などを彷彿とさせ、人間の質感が表現されている。

穴を開けた手前の横長の布と、奥の縦長の布で構成される重層的な空間を生み出しており、絵画の伝統をふまえながらも従来の絵画の枠を超えていこうという作者の思いを感じた。

布を天井から吊るすために、クリップで引っ張ってある場所も絶妙で、作品全体に独特の緊張感が生まれている。

特　別　賞〔小矢部市企業協会長賞〕



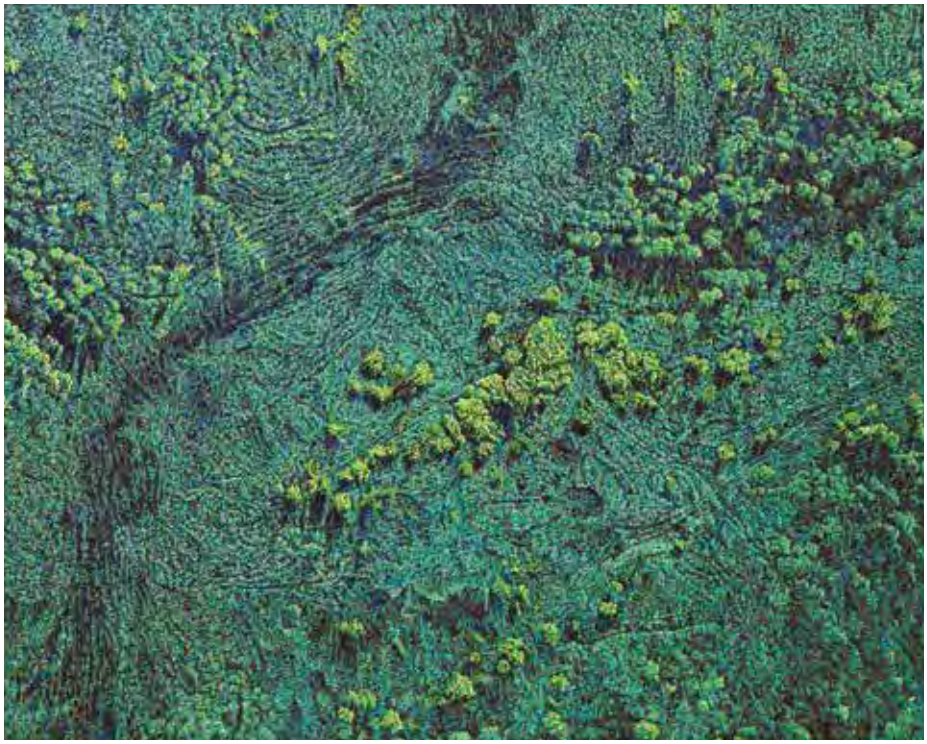
岩田　智代
いわた　ともよ

あいまいにしか思い出せない。
（インスタレーション）

平織、プリントした綿布、綿糸

昨今では機械であっという間にできることを、あえて手間をかけて編んで制作した作品。作品に描かれる子ども時代の情景がどんどん薄れていく様は、誰もが共感できて親しみやすいといえる。単純な編み物でも写真でもない、融合による斬新な手法で、黒い画面に見える残滓など、応募時の写真ではわからなかった織物特有のテクスチャーの面白さがあった。また写真と写真の間にある白いラインが昔のテレビの走査線やネガフィルムのようで、ノスタルジーを感じる。織る行為を重ねることで記憶への想いは濃くなるが、記憶それ自体はだんだんとぼやけていくという切なさと、自分の過去の記憶は失われていくかもしれないが、作品を通して周辺の人やその子どもたちに引き継がれていくという逆説的な部分に希望を感じた。

優　秀　賞　<平　面>



かつては人間には見ることができなかった衛星写真による上からの視点を利用し、デジタルのドットで表わされるものを線描など手書きで描き起こすことで、現実と非現実が混ざり合い、この土地の営みのような生きた感じが絵に生まれている。

瀬川　寛
せがわ　ゆたか

草・樹 / 鶴居村
アクリル絵具、キャンバス



一見すると首が離れていて怖い雰囲気だが、遠い過去と先祖への繋がりを意識したというシリアスなテーマを内包しつつも、表現がシュールでアンリ・ルソーなど過去の巨匠の表現も彷彿とさせる。どこからきてどこへ行くかという根源的なテーマをも感じさせる、この先に何があるのかを想像させる深みのある作品。

櫻井　あや乃
さくらい　あやの

ながい休憩
油彩、キャンバス

優　秀　賞　<平　面>



絵としてはカラフルだが「拮抗（誰かの戦争、誰かの平和）」という、今の時代を体現するようなタイトルがつけられている。今の世の中の理不尽な問題の、絡まってほどくにほどけなくなってしまったもどかしさを感じた。線描や色彩、余白などからとても繊細な仕事を感じた。

片山　香帆
かたやま　かほ

拮抗（誰かの戦争、誰かの平和）
油彩、オイル、パステル、キャンバス



鉛筆でモノトーンに描かれているが、光の流れをうまく表現してあり、電車が止まっているが周りが動いているように錯覚させるカメラワークのような表現によって、都会の孤独を感じさせる。速度を表現しつつ、建物の立体感や存在感も表しているのはかなり高度なテクニックである。

山口　弘彦
やまぐち　ひろひこ

しんじゅく
鉛筆、水彩紙

優　秀　賞　<立　体>



１冊の本のページを折り曲げるだけでこのような造形を作ったということに驚かされる。使っている本の内容、言葉と作品のテーマやメッセージとがどう結びついているのかは定かでないが、分かる人には分かるかもしれないという面白さも秘めている。

T.Fuku
ティフク

嘘つき
ブックフォールディング、古本



CO-CO
ココ

朝焼け
白ジェッソ、蛍光オレンジ塗料、黒ボールペン



ヤマモト マサヒロ
やまもと　まさひろ

High Time
アクリル絵具、水溶性ペンキ、
ワトソン紙、パネル



肥沼 義幸
こいぬま　よしゆき

Onigiri Dog（雲の上はいつも晴れ）
木炭、木炭紙、パネル



阪本 幸円
さかもと　こうえん

SNOW WORK : NO.2023-I
インクジェットプリント、インク、和紙



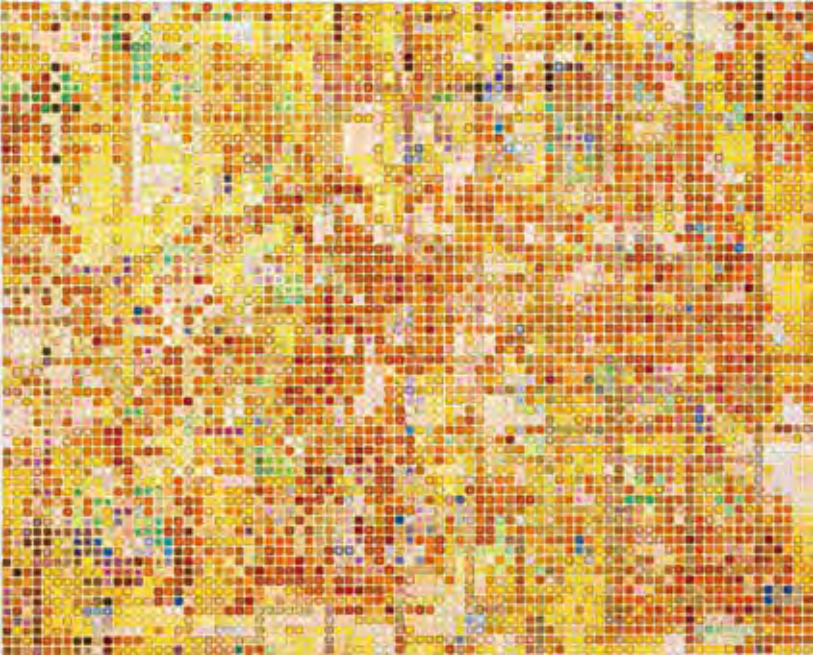
Hyoji
ヒョジ

obviously
アクリル絵具、ペン、キャンバス



中島 彰良
なかしま　あきら

Silent language
紙漉き、木版画、インク、メディウム、パルプ



長谷川 正美
はせがわ　まさみ

Stained canvas
油彩、キャンバス



安藤 光
あんどう　ひかる

無題 20121102901
ボールペン、ケント紙



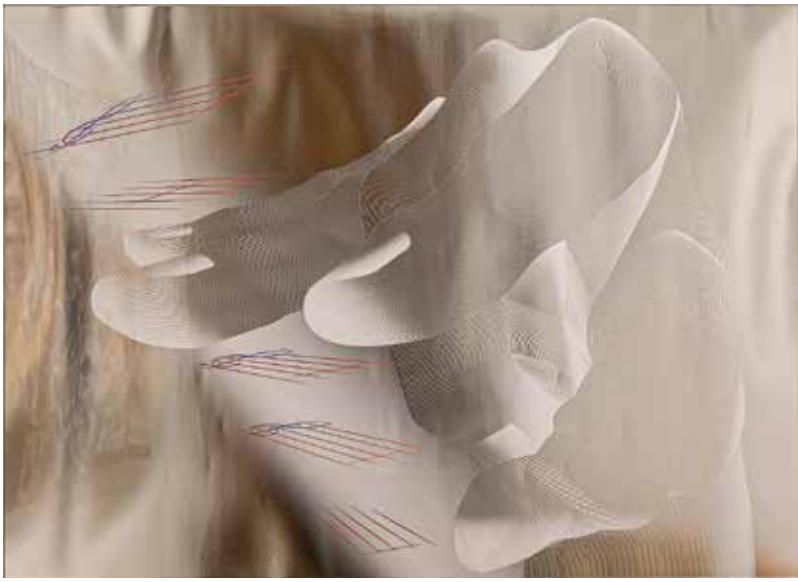
松本 のんの
まつもと　のんの

遠くへ
油彩、キャンバス



日比野 絵美
ひびの　えみ

floor
銅版画、油性インク、和紙



深山 重樹
みやま　しげき

意志を持つ手：静寂から躍動に変わる間、
力を溜めた一瞬の静止
デジタル描画、鏡面紙



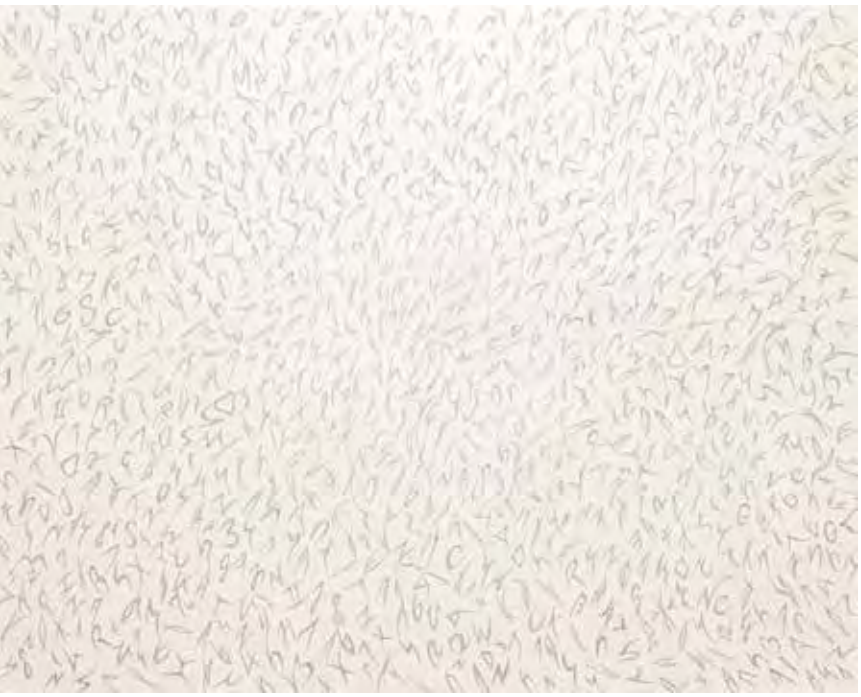
牧野 優希
まきの　ゆうき

冬虫夏草の歌
油彩、キャンバス



野田 晋央
のだ　しんよう

しまうまの昼食
油彩、アクリル絵具、キャンバス



アオト ヒデキ
あおと　ひでき

E-2411
鉛筆、紙



上原 勇希
うえはら　ゆうき

超兵器 R56 号を撃て
油彩、キャンバス



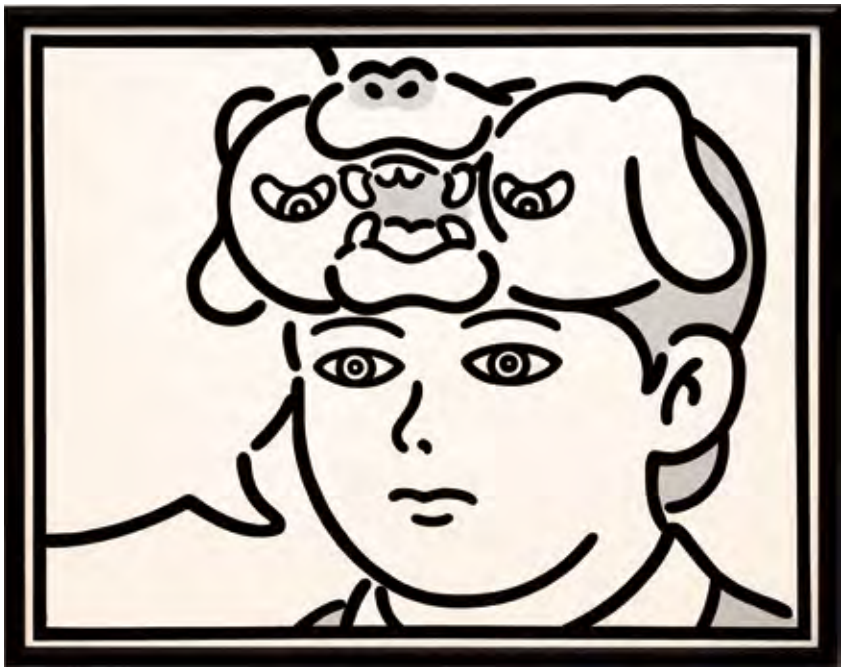
音舞里
ねむり

after bone ー骨の渦中ー
アクリル絵具、ペン、キャンバス



BARBINI DAVIDE
バルビーニ　ダヴィデ

明日の昨日〜風紋の物語〜
アクリル絵具、キャンバス



豊田 玉之介
とよだ　たまのすけ

Untitled
アクリル絵具、キャンバス



吉田 華
よしだ　はな

作っては剥がす
油彩、キャンバス



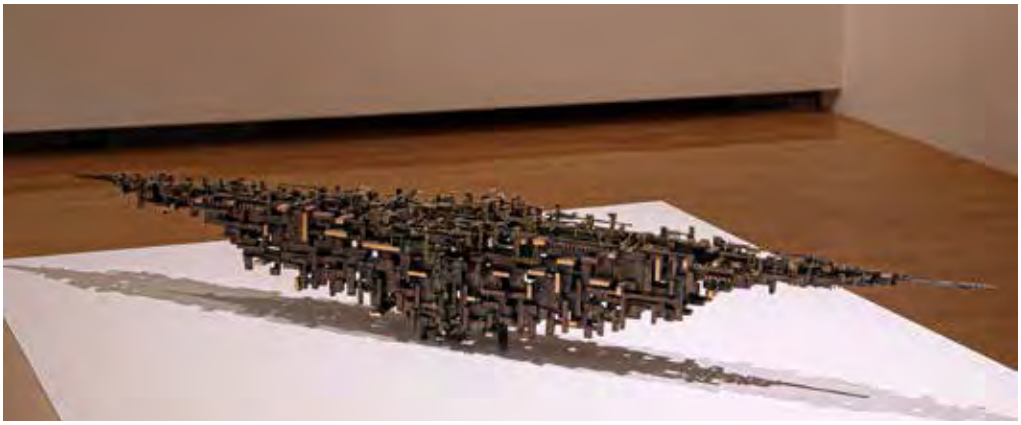
二村 有音
にむら　ゆおん

雲の海
テンペラ、油絵具、和紙、キャンバス



田中 満幸
たなか　みつゆき

HAPPY BIRTHDAY
ミクストメディア



久野 彩子
くの　あやこ

in the twilight before sunrise
ロストワックス鋳造技法、ロストワックス精密鋳造技法、ブロンズ、真鍮



taQminton
タキュミントン

風の彫刻
石膏、ポリエステル樹脂、
インキ、工業製品



高木 鈴香
たかぎ　すずか

のーばでぃ
楠、赤松、檜、アクリル絵具、顔料



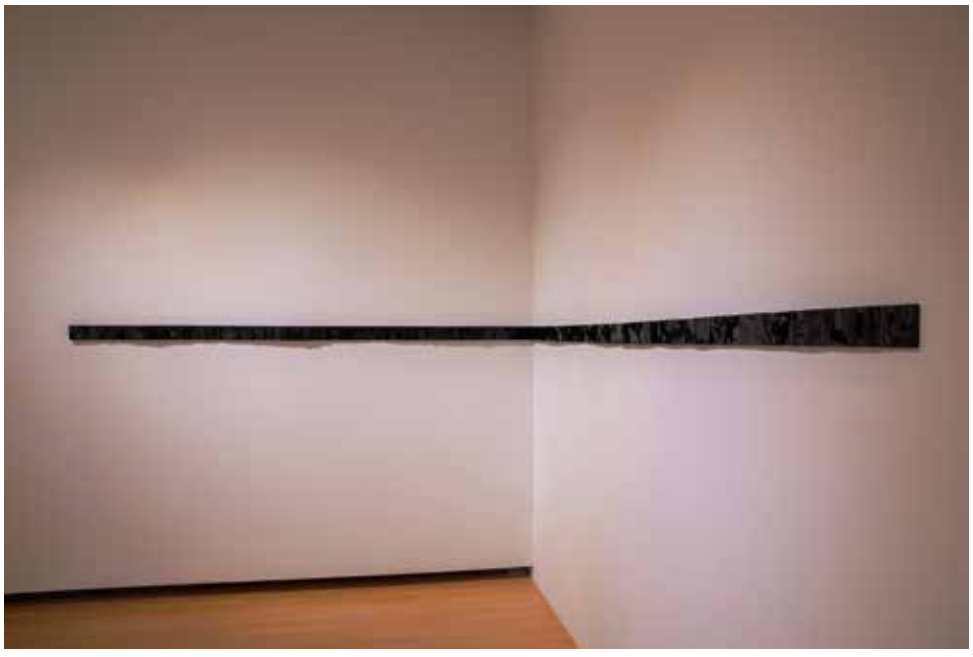
Kiyoshi Yasuda
きよし　やすだ

思考
立体彫刻、木、ミラー、ペンキ



土井 健史
どい　たけふみ

浮動産
アルミフレーム、蓄光プラチェーン



高橋 呼春
たかはし　こはる

一線
漆、クリ



高島 亮三
たかしま　りょうぞう

WAR IS PEACE
紙

服部 正志
はっとり　まさし

ちちのおにぎり◯むすめのおにぎり
木版画、シナ合板、和紙





川野 昌通
かわの　まさみち

あるいは循環について
型取り、溶解、鉄、塩



竹内 由美
one mother



三神 雄二
独人



宮村 夏生
水辺



Jun
躁と鬱の狭間に



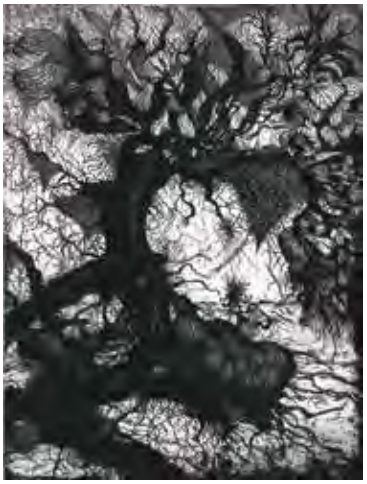
ルーク・クラウチ
胎内くぐり



林 大介
マーマレーション（集団飛翔）



楓 kaede
土に還る



林 茉梨子
侵食する獣



tete
花のある空間



Ana Jovanovska
再現



坂間 真実
8,190 F



F
One?



mAcOtOn
MJ



榎木 陽子
春が来て驚く



邑山 豊穣
時の積層 2024–2025



悠アンヌ
I am ギャラクシー



蒋 心怡
記憶の部屋

入選＜平面＞



鈴鹿 萌子
古今の掛け物Ⅰ－Ⅴ



有紀
overflow



大西 由莉
サルスベリの木を見ながら、

入選＜立体＞



杉本 音音
Phoreography
―うごきをつくるリハビリ



千葉 洋
対立と分断



塩田 裕未
どうしたって



山田 実紀
廻るモノ



中杉 直美
Moon



笠嶋 富士幸
Form 2025 -en-



坂本 英駿
筆墨ー靄ー



池田 欽一
Muse. ～ petroglyph ～



合田 圭吾
被食者はいずれも、エロティックで
グロテスクな道を辿る

入選<インスタレーション>



小林 大悟
震災遺物付喪神妖怪絵巻



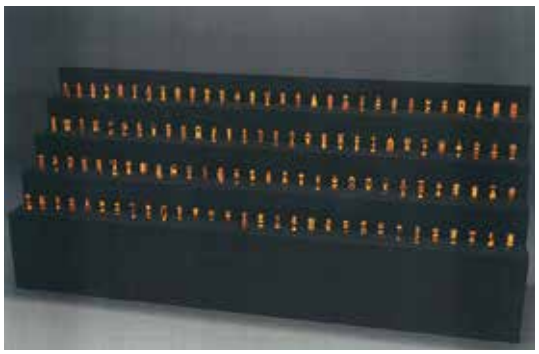
大谷 正幸
エピステモロジカル美術教育



金山 正貴
waves in the record
～波間のレコード～



Kei Arabuna & Aoi Takashima
木漏れ日



梅崎 誠仁
オブジェ Ⅰ～Ⅰ20



田中 敬二
ゴミラ



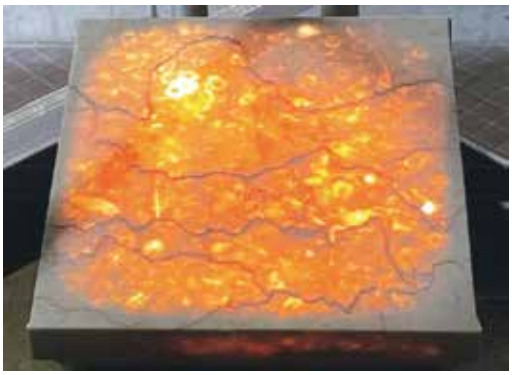
ZENG HUIRU
youth republic



蒔苗 正樹
手はとどかないけれど



林 七海
Date Ramen Paintings



工藤 雄大
if.003,004,005

入賞・入選作家一覧

大　賞（小矢部市長賞）

<インスタレーション>　川西 佑佳（石川県）

特別賞（北日本新聞社賞）

<インスタレーション>　畑中 みずき（石川県）

特別賞（小矢部市企業協会長賞）

<インスタレーション>　岩田 智代（愛知県）

優秀賞

<平面>

瀬川 寛（神奈川県）　櫻井 あや乃（東京都）　片山 香帆（東京都）　山口 弘彦（岐阜県）

<立　体>

T.Fuku（東京都）

佳　作

<平面>

CO-CO（新潟県）　ヤマモト マサヒロ（富山県）　肥沼 義幸（埼玉県）　阪本 幸円（福井県）　Hyoji（岡山県）

中島 彰良（兵庫県）　長谷川 正美（愛知県）　安藤 光（福島県）　松本 のんの（石川県）　日比野 絵美（神奈川県）

深山 重樹（東京都）　牧野 優希（神奈川県）　野田 晋央（滋賀県）　アオト ヒデキ（神奈川県）　上原 勇希（石川県）

音舞里（東京都）　BARBINI DAVIDE（茨城県）　豊田 玉之介（群馬県）　吉田 華（石川県）　二村 有音（静岡県）

<立　体>

田中 満幸（愛知県）　久野 彩子（東京都）　taQminton（東京都）　高木 鈴香（兵庫県）　Kiyoshi Yasuda（愛知県）

<インスタレーション>

土井 健史（東京都）　高橋 呼春（石川県）　高島 亮三（東京都）　服部 正志（大阪府）　川野 昌通（大阪府）

入　選

<平面>

竹内 由美　三神 雄二　宮村 夏生　Jun　ルーク･クラウチ　林 大介

楓 kaede　林 茉梨子　tete　Ana Jovanovska　坂間 真実　F

mAcOtOn　榎木 陽子　邑山 豊穣　悠アンヌ　蒋 心怡　鈴鹿 萌子

有紀　大西 由莉

<立　体>

杉本 音音　千葉 洋　塩田 裕未　山田 実紀　中杉 直美　笠嶋 富士幸

坂本 英駿　池田 欽一　合田 圭吾

<インスタレーション>

小林 大悟　大谷 正幸　金山 正貴　Kei Arabuna & Aoi Takashima　梅崎 誠仁

田中 敬二　ZENG HUIRU　蒔苗 正樹　林 七海　工藤 雄大

■実行委員会　沼田 勉　野澤 正幸　前田 智嗣　埴生 雅章
野澤 敏夫　山本 興山　高木 利一　西野 和幸　堀澤 忠志　高田 英樹

主　　催　第 5 回公募アートハウスおやべ現代造形展実行委員会
共　　催　小矢部市、小矢部市教育委員会、北日本新聞社
後　　援　富山県、小矢部市芸術文化連盟、NHK 富山放送局、北日本放送、富山テレビ放送、
チューリップテレビ、FM とやま、エフエムとなみ、となみ衛星通信テレビ
協　　力　小矢部市企業協会

■企画・発行　アートハウスおやべ
■デザイン　薮 道子
■写真撮影　松藤 智恵

小矢部市美術館 アートハウス おやべ
〒932-0821　富山県小矢部市鷲島10　クロスランドおやべ内
TEL 0766-53-5344　FAX 0766-53-5844　https://art-oyabe.jp/